



2-17

森林環境学習「やまのこ」

1. 「やまのこ」の概要

2007(平成19)年度から、小学校4年生を対象に、学校教育の一環として、次代を担う子どもたちが、森林への理解と関心を深めるとともに、人と豊かにかかわる力を育てるよう、県内の森林環境学習施設(9箇所)で体験型の環境学習を実施しています。

2023(令和5)年度には、県内すべての小学校231校が「やまのこ」事業に参加しました。

「やまのこ」学習は、県土の2分の1を占める森林が、琵琶湖の水源として重要な役割を果たしてくれることに気づき、5年生のびわ湖フローティングスクール「うみのこ」の学習につなげることもねらいの一つにしています。

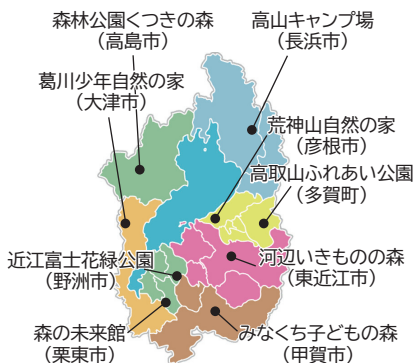


図2-17-1 「やまのこ」学習 実施施設

2. 目的

「やまのこ」学習では、子どもたちが実際に森林に入り、樹木や草花、あるいは森に住む生き物などに興味を持つとともに、間伐体験など森林での様々な体験学習をとおして、森林のはたらきや重要性を学ぶことを目的としています。また、自然の厳しさ、危険性というものにも気づき、それに対処する力を身につけることや、ルールを守り、楽しく学習することで、互いを思いやる気持ちや協力しあう心を育むことも目的としています。



写真2-17-1 間伐体験

3. 学習プログラム

施設ごとに、やまのこ専任指導員と学校が連携し、「森に親しむ学習」、「森づくり体験学習」、「森の恵み利用学習」、「森のレクチャー」などの学校ごとに特色のあるプログラムを展開しています。

また、実施にあたっては小学校ごとに事前・事後学習を実施するなど、学習の効果を高めるための取り組みも行っています。